

令和8年度(2026年度)予算(案)

※この予算(案)は、令和8年第1回多摩市議会定例会で可決された後、本予算となります

変化の激しい社会情勢の中でのさまざまな行政課題の解決に向けて、市民の皆さんの生活に影響がでないようしながら、創意工夫を行い着実に施策を進めていくこととして、予算を編成しました。

定を行い、これまでの積み重ねを基礎にして、基本構想で定めた将来都市像の実現に向けた取り組みを着実に進め、市政を次のステージへとつなげていきます。

令和8年度は、第六次多摩市総合計画が4年目を迎えます。基本計画の改

1. 令和8年度予算(案)の全体像

会計名	令和8年度	令和7年度	増減額	増減率	
一般会計	691億8000万円	685億5000万円	6億3000万円	0.9%	
特別会計	国民健康保険特別会計	143億960万円	150億1505万円	▲7億545万円	▲4.7%
	介護保険特別会計	137億2368万円	130億5653万円	6億6715万円	5.1%
	後期高齢者医療特別会計	57億8651万円	52億416万円	5億8235万円	11.2%
	合計	1029億9978万円	1018億2574万円	11億7404万円	1.2%

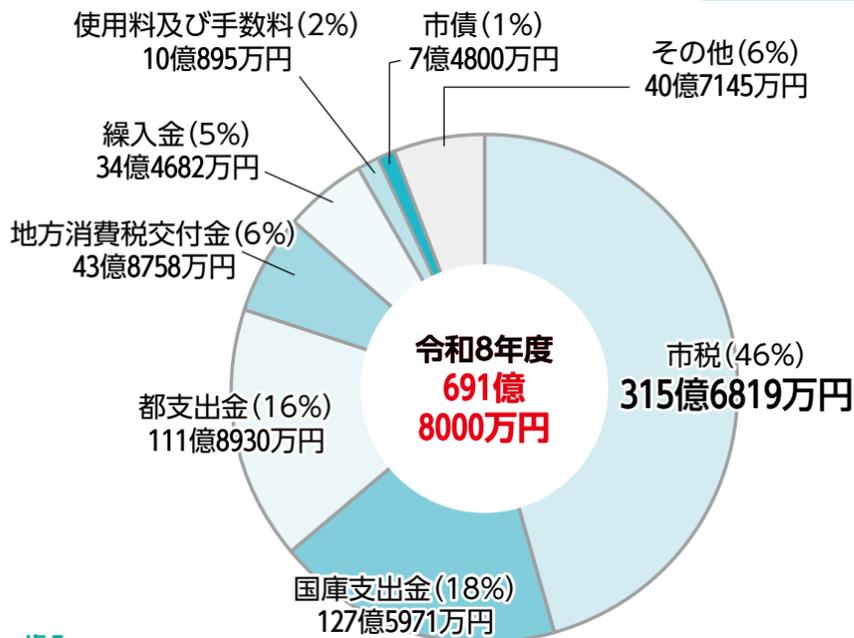
区分	令和8年度	令和7年度	増減額	増減率	
下水道事業会計	収益的収支(※1)				
	収入	35億488万円	34億8323万円	2165万円	0.6%
	支出	33億532万円	32億3338万円	7194万円	2.2%
資本的収支(※2)					
	収入	3849万円	4230万円	▲381万円	▲9.0%
	支出	6億9571万円	4億6108万円	2億3464万円	50.9%

※1 下水を処理するための収入と支出
※2 下水道施設などを整備するための収入と支出

※千円単位で四捨五入しているため、合計額と会計ごとの合計は一致しない場合あり

一般会計予算(案)内訳

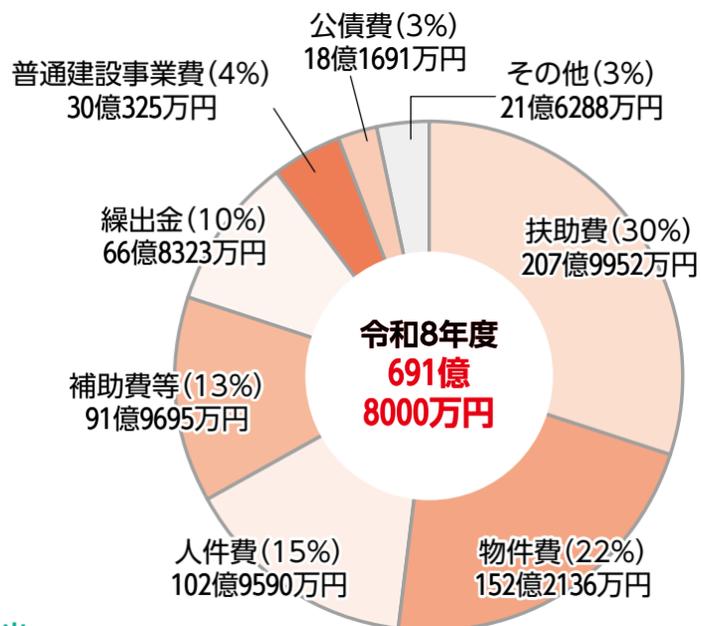
歳入



歳入

歳入の46%を占める市税は、令和7年度から約3億円増加し、過去最高の約315億円を見込んでいますが、今後の動向は不透明です。また、国や都から支払われる国庫支出金および都支出金は主に民生費や教育費などの歳出予算に連動するもので、歳入の34%を占めています。また、国内消費の堅調な推移により、地方消費税交付金が約5億円増加する見込みです。

歳出

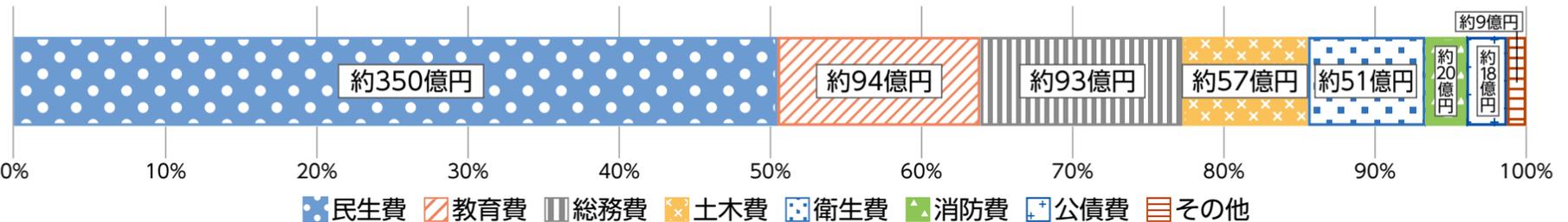


歳出

物価や人件費の上昇により、補助費等が約6億円、人件費が約5億円増えています。加えて、扶助費が約4億円増加しています。この3つの費目の伸びが、歳出予算額増加の大きな要因となっています。また、一般会計の予算規模は691億8000万円と、前年度と比較して6億3000万円増額しました。

2. 多摩市がどんなことにお金を使っていくかお伝えします！

令和8年度一般会計予算(案)の目的別予算額



もっと詳しく知りたい方へ

公式ホームページなどで公開されている「令和8年度当初予算(案)の概要」をご覧ください。

上のグラフは、多摩市が令和8年度にどんなことにお金を使っていくかを示したグラフです(一般会計歳出予算を目的別に集計したもの)。

市民生活を支える民生費に約350億円と、歳出予算総額の約半分を使っていることがわかります。このうち、子どもたちの福祉などに約140億円、障がいのある方の福祉などに約69億円、生活保護の方の支援に約55億円、高齢の方の福祉などに約53億円の予算を使っています。

また、教育や文化・スポーツに関する教育費は約94億円と、2番目に多く予算を使っており、これは全体の約14%を占めています。このうち、約45億

円は市立小・中学校に関するもの、約16億円は社会教育に関するものです。

その他に、市民の健康や環境への取り組みである衛生費に約51億円使っており、全体の約7.4%を占めています。このうち、ごみ処理や環境への取り組みに約32億円、予防接種などの健康への取り組みに約19億円(このうち、約7億円は子どもや子育て世帯に対するもの)の予算を使っています。

これからの多摩市を担う子どもたちを中心に、時代の変化に柔軟に対応しながら、皆さんの生活を支援していきます。